

第26回 第2章 現代の経済

第3節 日本経済の発展と産業構造の変化

日本経済の現状

講師
篠田健一郎

学習のねらい

1990年代から今日に至るまでの日本経済の特徴を、「失われた十年」「構造改革がもたらしたもの」「世界金融危機後の日本経済」という3つの特徴ある時期に区分して理解しましょう。高度経済成長の時代を支えたさまざまなしくみはどのように変わったのでしょうか。新自由主義的な改革によってもたらされた影響を私たちはどのように考えたらよいのでしょうか。いっしょに考えていきましょう。

調べておこう
覚えておこう

デフレスパイラル／不良債権／リーマン・ショック／
格差の拡大／いざなぎ景気／
金融の自由化／構造改革／東日本大震災

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

失われた十年

1980年代後半から1990年代の最初にかけて、日本経済はバブル経済に沸きました。しかし、実態経済以上の景気拡大は後退局面に入ると深刻な不況にみまわれました。金融機関は貸したお金が返ってこなくなる^① _____ を抱えて融資がままならず、民間の設備投資も低迷しました。1991年からはじまる平成不況です。

1996年の橋本内閣による^② _____ をはじめとする日本版金融ビッグバンや1997年のアジア通貨危機の影響を受け、不良債権処理に行き詰った金融機関の破たんも起こりました。さらに^③ _____ が起こります。つまり、景気の低迷が物価の下落を招き、物価の下落が企業業績を悪化させ、賃金の下落や失業の増大を引き起こし、さらなる景気後退をもたらします。政府は景気対策のための財政出動として公共事業を拡大しました。しかし、景気は低迷したまま好転せず、さらなる財政赤字を残すだけとなりました。日本経済はバブル経済以前の活力さえ取り戻せませんでした。

POINT 2

構造改革のもたらしたもの

2001年に発足した小泉内閣は「改革なくして成長なし」「聖域なき^④ _____」を掲げて、規制緩和と自由化推進などの新自由主義的な制度改革を進め、経済の活性化を図ろうとしました。小泉内閣の下で金融機関の不良債権処理には見通しが立ち金融不安は収束に向かいました。アメリカを中心に世界的には好景気が続いていたことから日本からの輸出も堅調に伸

